

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つける
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

IDS: 創立25周年迎え 更なる飛躍へ

デジタル画像処理のパイオニアが新たな取り組み 人工知能搭載カメラ&画像処理の用途開発に着手

**IDSのモットーは
“It's so easy!”**

産業用カメラメーカーのアイ・ディー・エス(IDS Imaging Development Systems GmbH)は、本年創立25周年を迎え、更なる飛躍に向けて新たな取り組みを開始している。

ドイツ・オーバーズルムに本社を構えるファミリー企業の同社は、独自の道を切り拓き着実にステップアップを続けている。

同社は、創立者兼業務執行取締役のJürgen Hartmann氏が率いるドイツの注目企業。モットーの“it's so easy!”を企業スローガンに掲げ、個客に最適な先進的テクノロジーを短期間で提供する企業姿勢を継続する。

**IDSの現況及び
今後の取り組み**

同社の舵取りを担うJürgen Hartmann氏は、「もう2年になりますが、SMEセクターには多大なプレッシャーがかけられています。世界的な半導体不足と、基本的な電子部品のサプライチェーンの逼迫により、弊社のカメラ生産も影響を受けています。そこでIDSの創立25周年にあたる今年、困難な世界的な経済状況に対して柔軟性と創造性で立ち向かいます。新しいハード



ウェアプラットフォームの短期開発、開発計画の積極的な修正、効果的なサプライヤー管理を打ち立てて、商品を確実に流通させ、現状の影響を低減させていきます。この調整力が私たちの強みです。市況への柔軟な対応こそが、常に会社が成功し続けるための原動力になってきました」と指摘する。

また、Jürgen Hartmann氏は、「弊社は同時に、カメラメーカーとして独自のビジョンも追求しています。消費者向け市場から生まれた未来志向のテクノロジーは、業界向けに絶えず開発が進み、世界市場をリードする企業の一つになっています。1997年にフレームグラバーから始まり、2004年にはUSBインターフェースを搭載した市場初の産業用カメラが生まれました。

創業25周年となる本年は、人工知能搭載のアプリベースのカメラと、画像処理の新たな用途開発を中心に取り組みます。私たちには、実現できる多くのアイデアがまだあります」と強調する。

**ドイツから世界に向けて
独自の製品、技術を発進**

25年以上におよびファミリー企業を貫く同社は、現在およそ350名の従業員を擁する独立系のISO認定デジタル産業用カメラメーカーへ成長している。今日ではオーバーズルムの本社において、革新的な画像処理コンポーネントの開発及び製造を行っている。

その一方、米国、日本、韓国、英国に現地子会社を、ヨーロッパに支店を有し、グローバルに事業を展開する。

「弊社のアイデンティティの重要な部分は常に、大学、スタートアップ企業、若手のテクノロジーパイオニアとの協力という、地域のネットワークです。2020年、弊社は先進的なb39テクノロジーセンターに移動しました。こうした成長とともに、人々や環境への責任も忘れてはいません。具体的には、持続可能な製品や出荷方法、ビジネスパートナーとの公正な取引、家族への明確な配慮などです。IDSは2021年以降、完全にクライメート・ニュートラルな方式を取り入れています」とJürgen Hartmann氏は説明する。

**25周年記念の
革新的新製品**

IDS業務執行取締役で創立者の子息であるJan Hartmann氏は、「弊社の記念となる年の焦点になるのは、“未来”です。IDSが常に持っているイノベーションのアイデアと、何か新しいものを作り出すという意志は、私たち全員にしっかりと根付いています」と全社一丸での革新的製品開発をアピール。特に転送速度と解像度に優れたモデルなど複数の新製品発売に加えて、人工知能を搭載したスマートなIDS NXT産業用カメラのさらなる開発をこの記念の年に推進することを表明した。

「今では誰もが話題にしていますが、このテクノロジーをすでに使用してい

る企業はほとんどありません。人工知能は、従来の画像処理ではうまくいかないタスクを解決し、交通とスマートシティ、環境とスマート農業など、まったく新しい用途が開拓されます」とJan Hartmann氏は説明する。

画像処理のオンラインマーケットプレイスであるvisionpierによりIDSは、ユーザー(画像処理の経験の有無によらない)とターンキービジョンソリューションのプロバイダーとの間の仮想的な架け橋となる。事業対象を拡大することは、今後、同社をより広く位置づけるだけでなく、マシンビジョンが増大する社会的・政治的課題の解決に貢献できる産業に進出することを意味する。

創立者兼業務執行取締役のJürgen Hartmann氏は、「現在の市場で生き残りたいなら、創造性を発揮して独自の道を進まなければなりません。全員が同じ方向に進んでいる時、私は原則として別の方向に進みます」と表明した。

■IDS Imaging Development Systems GmbHの概要

IDS Imaging Development Systems GmbHは、産業用カメラ及び産業用画像処理におけるパイオニアとして高いシェアを堅持する。同社は強力な汎用USB、GigE、3Dカメラのモジュール式概念と、人工知能(AI)搭載のモデルを開発する。カメラの用途はほぼ無限で、幅広い分野の装置、プラント、機械工学で活躍する。AI画像処理プラットフォームIDS NXTは汎用性に優れ、従来のルールベースの画像処理では限界に達してしまう、新たな用途分野の可能性を実現する。IDSはvisionpierというオンラインマーケットプレイスを運営し、既製の画像処理ソリューションのサプライヤーと、関心を持つエンドカスタマーを、的を絞って結び付けている。本社はドイツ・オーバーズルムにあり、開発と生産を担う。日本では、アイ・ディー・エス株式会社が市場に最適な製品、技術を提供する。(※資料提供：アイ・ディー・エス)



■アイ・ディー・エス株式会社 URL→ <https://jp.ids-imaging.com/>